

きっと見つかる、ずっとつながる笑顔の和

第16号  
2020年  
03月

# わけん便り



左：更生病院 看護部長 伊藤真知子、右：座間会長

## ～目次～



・理事長挨拶.....	1P
・法人事業本部長兼病院長挨拶.....	2P
・経営監理本部長挨拶.....	3・4P
・各事業所所長挨拶.....	5・6P
・各事業所の取り組み.....	7P
・法人教育委員会の取り組み.....	8P
・「あの人、この人、こんな人」編集後記.....	9P



# 理事長 挨拶



社会福祉法人ワグン福祉会

理事長 座間研一

昨年は世界的に見てアメリカとイランの紛争、アメリカと中国の経済摩擦、北朝鮮の動向、香港のデモなど非常に不安定であったことは否めない状況でした。一方日本では、5月に天皇即位があり、改元され令和の時代に入りました。おめでたい話だけでなく東日本では台風、大雨などとなってない被害で、多くの住民が被災し困難な生活を未だに余儀なくされています。

そして今年に入り数か月ですが、オリンピックやパラリンピック開催に浮かれている日本人に冷水を浴びせかけられるように、世界的な規模で大変な厄災がもたらされています。中国武漢を中心にして新型コロナウィルスによるパンデミックと言っていいような大被害が世界中に発生しています。人々の不安に付け込むようなデマやフェイクニュースが蔓延したり、物資の買い占めで一儲けしようとする輩まで跳梁跋扈しています。これものちに世界的な経済不安、景気後退を余儀なくされるかもしれません。いち早い収束を願うばかりです。また冬期に

恒例のように発生するインフルエンザですが、新型コロナウィルスの影に隠れていますが、アメリカでは猛威を振るっています。多くの感染症にとって予防は、手洗い、うがい、マスク、睡眠、人込みができる限り避けるなどに気をつけていくことです。当法人の職員はほとんどが対人関係の仕事をしていますので、常に全員が予防を怠らぬよう意識を持ち続けなくてはなりません。

今年度は法人にとって勝負の年と言えます。

法人の中核である総合相模更生病院を大きく変えていきます。療養病床を廃止し、すべて一般病床に転換します。その為B棟を大改修しA棟と遜色ない設備にいたしました。全体を通してシステムの構築、医師、N.S. コメディカル等の人材の確保も概ね順調に進んでいます。職員の異動等があり、実際には少し時間がかかると思われます。しかしすべてプロの集団ですから自らの使命と責任、組織人として迅速に定着していくものと期待をしています。とにかく失敗は許されない状況です。全員一丸となって取り組まなければなりません。特に管理者層の責任は大きくその双肩に掛かっています。

次に大きな柱である高齢者施設群ですが、設立から15年から25年近く経過しました。設備面において各所でハード面、ソフト面での更新や改修が必要になってきました。昨年から順次手を付けて大きな損傷が少ないうちに補修しました。例えば4人部屋を準個室のようにアメニティの質を上げ、入所者に使いやすく、より快適に過ごしてもらう環境作りに着手しました。通信設備やP.C.の更新など費用は大きく発生しますが、利用者にとっても職員にとってもより安全面でのサポートが高くなりました。

来年度から施設だけでなく在宅サービスにも力を入れていきたいと思います。施設、病院にはそれぞれの存在意義があります。必要であることには間違ひありません。ただつい箱モノで働くほうが安心感があるように感じてしまいます。しかし今や在宅サービスの需要のほうが圧倒的に箱モノを凌駕しています。国民が望むサービス、必要で使いやすいサービスは無限に広がる在宅系サービスに移行しています。より大きく広げていき、それぞれの特性にあったサービスの提供が必須となります。もう時代が変わってきたのです。

最後に人材の獲得についてですが、医療系のD.R., N.S.については如何にその施設や病院の質が高く魅力的でなければ人材は集まりません。自己を前面に出すのではなく、困難なときにはお互いに支え合い補完していく気持ちこそが法人の理念に沿ったものです。高齢者施設では人材の枯渇が言われています。来年度末には多くの外国人スタッフを採用します。これからは彼ら、彼らがいなければ成り立たない時代になるかも知れません。

さて、当法人には多種多様な医療・福祉サービスがあります。互いに連携を強め市民、区民になくてはならない存在として、しっかり地域に根差した法人を目指さなくては生きる道はありません。職員全員が覚悟を持って仕事に取り組まなくてはなりません。

# 法人事業本部長兼病院長 挨拶



総合相模更生病院

法人事業本部長兼病院長  
**松本豊**

我が国において医療を取り巻く環境は、地域医療調整会議、働き方改革、AIの導入等の議論により大きく変わりつつあります。現在全国に存在する8,300病院は、10年以内に6,000台に減少し、約20万床が消失する見込みであると予想されています。マスコミはもとより、このようなことを盛んに歌い、危機感を煽りながら、病院経営に関するコンサルトと称する会社よりダイレクトメールが病院長宛てに届くことも多くなりました。それはそれで収入が増加した、支出が減少した病院の事例を掲載し、あたかもそれらの会社にお願いをすれば病院の経営は劇的に改善するかのようです。

当院は、地元地域の要請に対し真摯に向き合い対応することを旨としており、全診療科とも直接来院された患者さん、紹介あるいは救急要請のあった患者さんに対して、基本的に断ることなく受け入れを行う方針である事は、院内外のあらゆる機会に再三繰り返し表明している通りであります。さらに補足をす

るならば、国民皆保険の導入により誰もが医療機関を受診することが可能となった時期に重なる昭和30年～40年代の高度成長期は、日本が戦後力強く立ち上がった時代であり、我が国の青年期であったとすれば、現代の高齢者が増加し、衣食住が満たされた上に自身が望むような生き方や、生活を求める時代は国や国民にとっての成熟期と言えようと思います。そして成熟した社会が求める医療、介護、福祉とは何かと思慮するならば、我々は時には愚直に目の前の患者さんに対して、その方の生活基盤の背景や身内の方々のことも考慮に入れて対応をすることではないかと考えます。

どのような時代においても大切なことは、当たり前のことですが、病院並びに法人の方向性をしっかりと揺るぎないものとすることです。私たち医療人にとっても、収支を改善し、安定的な経営基盤を構築することは言うまでもなく大変大切なことです。株式会社の如く利益を求めて株主に還元する様な利潤の追求は行いませんが、病院、法人の行く末への安心、あるいは個々の職員の生活保障無くしては職員が上質な仕事を目標にまい進することは困難です。

またそれぞれの患者さん、入所者さん、利用者さんが望む生活や人生に寄り添う仕事は、収入を増やし、支出を減らすといった単なるそろばん勘定ではなく、勿論ただ単に生産性のみを追求するものではなく、アートであり感性による賜物であると言えようと思います。それが目指すところは「善」であり「真」であり「美」でなくてはならないと考えます。

私たちに求められている医療の本質を見失うこと無く、地に足をつけて、決してひるむことなく医療人としての誇りと使命を忘れずに全力で自らの仕事に取り組み、法人並びに病院がより高みを目指し努力した結果、今までに見たことがない風景を皆さんと共に見ることができたら、これに勝る喜びは無いと思っております。

松本院長宅飼い兎  
「キャロル」ちゃん



# 経営管理本部長 挨拶



社会福祉法人ワゲン福祉会  
経営管理本部長  
**飯村芳樹**

皆様。いつも本当にお疲れさまです。良い年越しをお迎えになられたでしょうか。

私は、できる限りの時間を捻出して、グループの各施設の現場をなるべく多く見て回り、現場で汗をかく皆さんと直接お話しできる機会を少しでも多く取れるようにして、経営監理にフィードバックしたいと思いながらも、まずは自分の役割を全うするべく飛び回っていたらあっという間に新しい年が明けていました。

さて、2020年4月には、当法人が発足して75期目の春を迎えることとなります。75期というのは物凄い年数です。一言では語りつくせないような挑戦と努力の歴史があります。

今までに働いていただいた先人の方々や、皆様のご理解とご協力と努力の賜物であり、あらためて感謝を申し上げます。

今年も地域の方々、そしてグループの皆様と一緒に、ワケングループが、今まで以上に活気と意欲にあふれ、医療・福祉における充実した実践を重ねることで、大いに実りある一年をしていきたいと考えております。

そんな今年はワケングループの全員で取り組みたい実践が3つあります。

一つ目は、総合相模更生病院において介護療養病床を急性期病床に転換していく中で、地域社会に求められる急性期病院として、ステークホルダーの方々から真に信頼を得ていくために何を成すべきかを考えて実践することです。

2月1日のBSC発表会では、医事課や看護部・リハなど様々な部署から「連携」を意識した素晴らしい発表がなされました。計画を実践していく中で、専門職としての新しい発見や、やりがいをきっと見つけられることだと思います。勿論、大変なこともあるでしょう。仕事は常に大変だったり面倒なことばかりです。それが他者に提供できることによって仕事になるわけです。私たちの「和顔愛語と先意承認の精神によって人を助ける」という仕事は、どんな仕事よりも尊いものだと思います。

座間会長からは「損して徳をとれ」とよくお話をいただきます。急性期化して収益性は確実に増します。今回の設備整備によって、A棟改修をはじめとした一連の病院のこれまでの全ての設備投資に見合うバランスの取れた収支構造となるでしょう。しかし、お金は大切ですが、この「損して徳をとれ」の心構えはもっと大切です。新たな知恵を生み出し、部署や職種を超えて仲間との絆を強めながら、しっかりと着実に良い仕事をしたいと願っております。

二つ目には、患者様やご利用者の方々にとって真に良いサービスを提供できる環境の整備を行うために、今も刻々と老朽化する施設・設備の更新に向けて、財政的な支援を申し出てくれる当グループの応援団となるようなファンを増やす活動の実践をしたいと思っています。ファンドレイジングと言われる活動です。法改正によって、私たちには地域における公益的な取り組みが義務化されました。こうした潜在ニーズへの対応を含めて、チャレンジングなグループとして地域に愛され、また、ご寄付いただいたものを着実に社会に還元するという循環を作り上げることが目標です。色々な企画を皆で実践できればと思います。

三つ目に、医療・福祉だけでなく様々な業界にとって人材確保に関する事業環境が厳しさを増す中で、海外人材の採用を含めて多様性のある人材の獲得と定着に向けた風土づくりを進める活動を実践することです。

福祉や高齢者介護の仕事は特に人が集まらないと言われています。それを悲観する学生が就職先に選ばないことが問題となっています。

しかし、世の中の動きを大きく見渡すと、いずれ介護の仕事には就きたくても就けない時代が来るのではないかと思わせる変化が出てきています。たとえば、百貨店業界は、今から30年前は花形の事業でした。今は非常に苦戦しています。新しい通信技術がインターネットとして発展し、スマホで買い物をすることが当たり前に変わると、物流倉庫事業者が従来の百貨店以上に多くの品ぞろえをすることによって販売業の形そのものを変えてしまいました。

今、中国やアメリカが5Gという通信技術で霸権を争っています。この次世代通信技術は、だいたい10年おきに新しいものが出てきています。以前はiモードだったものが、今はスマホに変わり、5Gにはスマホのようなコンテンツが無いのですが、今までよりも大きな情報量が届けられるようになります。2030年には6Gの時代になるでしょう。海外の医療においては、「6G回線のイメージを例える際に、「都市部の名医はロボットで離島の患者の手術をする」と言います。AIも人間には出来ない量の画像を読み取り、異常を検知する時代になっています。日本においては、ロボットで遠隔操作手術などは難しいでしょうが、新たな通信がもたらす世界では、港であがったばかりの魚をその場で調理する物流倉庫がスーパーの替わりになり、無人の配達技術で自宅に届けられ、今ある普通の仕事がなくなっているかもしれません。しかし、介護の仕事は人しかできません。どんなにロボットが上手に作れても、ご利用者の様子を見ながら最適な支援が計画出来て、ご利用者の体形や状態に合わせて支援の実践ができるというわけにはいきつきません。あと10年もすれば、人しかできない仕事として脚光をあびる花形職種になっていると思います。

さらに言えば、介護は専門性として科学的な視点で分析して介入するプロセスにおいて取り組みの余地がたくさんあります。この点について、先駆的に取り組むことがしっかりと出来るならば、私たちのグループは介護業界において大きな光を与えることとなるでしょう。新たな職員の獲得には、今いる皆様の力が必要です。定着率の向上に向けて皆で色々なことを取り組めたら幸いです。

私たちは、市況や景気が悪い状況の中でも、ぼやくのではなく、それを跳ね返し、高い専門性を獲得し仕事をさらに美しく喜ばしいものに仕上げ、事業が継続できる必要な収益を上げていける体质を作らねばなりません。Wカップで史上初のベスト8入りを果たした、ラグビー日本代表のように、ワケングループが次のステージに進む為にもまずはこれを「ワンチーム」となって確実に実践していくべきだと思います。未来は明るいです。

トンネルの出口はもうすぐです。



# 各事業所 挨拶



ワケン療育病院長竹

施設長 **村上研一**

## ワケン療育病院長竹

皆様はじめまして。昨年10月よりワケン療育病院長竹の施設長を拝命致しました村上と申します。長竹に赴任したのは約2年半前ですが、その前に重心施設で約5年間、同じような診療経験を積んで参りました。元々は小児外科医として約20年間、大学病院や急性期病院で一刻を争うような疾患と向き合う医療に携わってきたことから、こうした患者さん方が御自宅や入所施設でどのような生活を送り、急性期から慢性期に移行する中でどのような問題に直面しているかに关心を持ち、この世界に足を踏み入れた次第です。

この長竹も開設して6年目を迎え、重心施設として取り組むべき課題は数多くありますが、何よりも先ず充実させていきたいのは「気持ちの良いあいさつ」と「相手の痛みを慮ること」です。法人の皆様におかれましては「当たり前のこと」でしょうが、毎日の業務に忙殺されてこの「当たり前のこと」が忘れられないよう、そして利用者さんのみならず、同じ屋根の下で働く仲間をお互いに尊重し合いながら手をさしのべて助け合っていくこと、このことが自然

にできるような職場づくりを改めて初心に返って目指していきたいと思います。

まだまだ施設長としては経験不足ですが、皆様のお力添えを戴きながら頑張っていきたいと思いますので、何卒よろしくお願ひ致します。



ワケン新横浜

事務長 **袈裟丸智明**

## ワケン新横浜

ワケン新横浜は令和2年で開設16年目を迎えます。

開設から16年を経過し、ワケン新横浜や高齢者福祉事業を取り巻く環境は大きく変化したように思われます。

近年は、施設を利用する高齢者の方々の重度化はもちろんのこと、医療の必要性の増加や地域での生活困難な高齢者を含む世帯の方々の支援など、施設開所当初とは比較にならない困難な事案が毎月のように発生するようになってきました。ワケン新横浜では、上記のような困難な事案に対し各職員が専門職としての自覚を持ち責任を持って取り組んでまいりました。しかしながら、社会構造の変化に伴う人材確保の困難さは年々ますます厳しさを増し、事業所内の求人プロジェクトチームを中心に日々人材獲得に取り組んでいますが、想像以上

に横浜市を含む神奈川県内や首都圏全域において介護人材の確保が困難な状況となっています。

ワケン新横浜としては、事業の安定的な運営の為に、令和2年度介護人材の確保に事業所として全力を挙げて集中的に取り組むとともに事業所として外国人材の導入についても事業計画の中で検討を行っていきます。

今年は、令和2年3月末終了予定の特養多床室のプライバシー保護改修工事と令和元年10月のショートステイベットの特養転換というハードウェア上の大きな転換を行います。

ワケン新横浜としては、今後も設備改修や新規設備導入によるハードウェアの転換を進めながら高齢者福祉事業という労働集約型のビジネスモデルをいかに効率的に運営出来るか職員の作業環境を含め変革していくかなければならないと考えています。

上記の実現のためには、今まで以上に施設職員が一丸となり、より智恵を絞り業務に取り組むと共に法人内外の事業所との連携を強化し、厳しい環境の中でも生き残る施設となるよう取り組んでまいります。

# 各事業所 挨拶

## 相陽台ホーム



相陽台ホーム

施設長 **常盤拓司**

さて今の時代をVolatility：変動性、Uncertainty：不確実性、Complexity：複雑性、Ambiguity：曖昧性の4つの頭文字をつなげてVUCA（ブーカ）の時代と呼ぶそうです。そしてこの介護の世界も視界不良でブーカの時代かもしれません。しか～し、今年はオリンピックイヤー！！55年ぶりの東京五輪の年です！！ワクワクしますね！ご利用者の方で「俺の人生で2度目の東京オリンピックが開催される。これは誇りだよ。待ち遠しいね！」とお話くださった方がおりました。そうですブーカの時代でも東京五輪は必ず来ます。そしてこの福祉業界にも明るい未来、「外国人労働者」や「介護ロボット」と共に働く時代が必ず来ます。（信じましょう！）相陽台ホームの12月分給与袋には「サンクスカード」が同封されました。私も沢山のカードをいただき、何度も何度も読み返し、そして実感しました。皆さんと力を合わせればどんな逆境でも跳ね返すことができると、そして明るい未来を呼び寄せることができると！さあ、明るい未来を手に入れるために自分を信じ、ベストを尽くし、共に工夫と努力で不安な今を脱出しましょう！！いつやるかって？今でしよう！！Are you ready?（お願い）



総合在宅支援部門

部長 **平田則子**

## 総合在宅部門

令和と年号が新しくなり、初めての新年を迎え、又十二支でも始まりの子年でもあります。総合在宅も、気持ち新たに各事業所それぞれの目標達成に向けて前進していきたいと思います。そのためには、職員間のコミュニケーションを図りながら、研修を積み重ね法人内の施設、病院とも密なる連携を取り、見える関係性を築いていく事が出来ればと思います。今後ともご指導よろしくお願い申し上げます。



訪問看護ステーション

管理者 **鈴木イク子**

## 訪問看護ステーション

総合相模更生病院訪問看護ステーションに令和元年12月1日より前任者石原より管理者を交替致しました鈴木イク子と申します。

更生病院にて看護師を45年勤務後、保育園看護師を11月30日まで勤務し、今回訪問看護ステーションに移動となりました。年齢もありいつまで続くか心配ですが、今までの経験を活かして活動出来れば幸いです。

システム等分からない事ばかりですが、精いっぱい頑張っていきたいと思っていますのでご協力をお願いします。

たくさんご迷惑をお掛けすると思いますが、ご指導ご協力をよろしくお願ひいたします。

# 各事業所の取り組み

## 相陽台ホーム



相陽台ホームの地域交流委員会では、上半期の活動として、10月6日に行われた長寿フェスティバルへ施設のご利用者様をお連れして、催しの歌謡ショー や似顔絵コーナーがあり、ご利用者様に地域のお祭りに触れて頂きました。歌謡ショーはものまねを交えた歌謡ショーということもあり、大笑いしながら楽しく観ていました。

10月27日にはふるさとまつりに参加させて頂きました。出店内容は、ポップピングボバ入りドリンクとお菓子のつかみ取り、ペットボトルドリンクを販売しました。ポップピングボバ入りドリンクはとても好評で、お子様だけでなく大人の男性も購入して頂きました。

12月7日はガールスカウトの子供達に来ていただき施設のツリーの飾りつけをしてもらい、入所のご利用者様へクリスマスソングを歌ってもらいました。

そのほか、地域清掃を毎月1回基本第3木曜日に施設近くの公園の草取りを6月と11月には近くにある公園の花壇に花の苗植えをしました。清掃と草取りは委員会メンバーと運転手さんとで行い、花の苗植えはデイサービスのご利用者様も一緒に植えました。

施設内では、「すずらん喫茶」というカフェを障害福祉サービス事業所 すずらんの家の方々や麻溝ボランティアの協力も頂きながら、毎月1回開催しています。

これからも地域の方々と楽しく交流できるよう活動していきたいと思います。

## ワゲン新横浜



令和元年9月～10月の間に、三幸福祉カレッジ主催にて実務者研修横浜市港北区教室をワゲン新横浜で開催、20名の受講申し込みがありました。そのうち当施設からは、今年度から実施した「資格支援制度」を利用し4名が受講しました。

外部からの受講生はほとんどが近隣の介護施設などからの参加で、受講生の間で情報交換もできたのではないでしょうか。

日程の途中には、施設見学も実施し当施設を知っていただく機会にもなりました。

今回の受講生は、今年度以降介護福祉士国家試験を受けることになります。

介護業界の人手不足解消や人材教育の場で活躍していただきたいと思います。

## ワゲン療育病院長竹



利用者様が充実した日常を送れるように、日中活動や意思決定支援に力を入れています。日中活動は利用者様をグループに分けてグループごとにテーマを決めて活動しています。個別活動は各利用者様の意思を支援しながら支援計画を立て、ドライブやお買い物、近隣のレジャー施設を利用しています。季節ごとの行事やボランティアの方々の協力を経て、長竹の自然の中で季節感を味わえるように努めています。心理士による心理面のサポート、PT・OTによる座位や腹臥位、歩行訓練を取り入れたりハビリ

も充実しています。また地域やご家族の方とも交流を深め、秋の文化祭では利用者様主体となって開催している長竹カフェでのおもてなしや、日頃の活動の成果や成長を発表し、ご家族や地域の方から毎年好評を得ています。

また今年度は職員の指導や定着を目指し、利用者に安心・安全なケアの提供ができるよう努力してきました。今後も、地域の皆様やご家族の協力のもと、職員一同、より一層努力していきたいと思っております。

# 新人研修6ヶ月

令和元年10月18日（金）新入職員6ヶ月フォローアップ研修を実施しました。

久しぶりに同期と顔を合わせるので、和気あいあいとしたムードの中で研修がスタートすると思っていましたが、参加した新入職員からは少し緊張した様子が見られました。

午前中は相陽台ホーム健康支援課 西川課長に「メンタルヘルス」についての講義を行って頂き、その後は恒例となりつつある「ヨガ体験」をしました。西川課長の講義が進むにつれ、少しずつ緊張も取れ、ヨガ体験後には皆から笑顔が見られました。

午後は、グループワークを実施し、入職時に立てた目標の振り返りを行い、今年度の新入職員研修は終了となりました。研修にご協力頂いた関係部署の皆様、ありがとうございました。

引き続き、法人全体で新入職員を支えていければと思います。



## 中途採用者研修



令和元年10月18日（金）今年度の中途採用者研修を実施しました。

今まで、人事企画室教育作業部会として、4月入職者に関しては新人研修等を通じて、様々なバックアップを行ってきましたが、中途採用者に関しては、法人理念について学ぶ機会や、横の繋がりを作る機会がなかったと思います。中途採用者に、法人のことをより理解していただきたく、このような研修を企画いたしました。

職種も様々な18名の職員に参加して頂き、人事企画室 有馬室長から法人理念についての講義、その後はグループワークを行い、理念について深めてもらいました。参加した職員は皆、大変積極的で、とても有意義な時間になったと思います。

教育作業部会としましては、今後もこのような機会を作り、各病院・施設の垣根を超えた横の繋がりの形成に取組んでいきたいと思います。

## 2年目研修

令和元年11月20日に入職2年目研修を実施しました。通常の研修とは趣向を変えて、普段の仕事のストレスや運動不足の解消をして頂こうと、ボウリング大会を企画しました。

残念ながら業務の都合上、参加できない職員もいましたが、入職2年目に入った16名の職員が久しぶりに顔を合わせる機会となり、大変な盛り上がりを見せました。参加した職員からは「体を動かすことが少ないので、久しぶりにスポーツをすることができリフレッシュできた」「同じ病棟の同期意外とちゃんと会うのは久しぶりで少し緊張したけど、とっても楽しめた」などの感想が寄せられ、しっかりリフレッシュして頂けたようです。

人事企画室教育作業部会としましては、今後も職員が元気に働くよう、このような機会を作りたいと思います。



# 『あの人 この人 こんな人』

わげん便りシリーズ企画といたしまして、各法人の人物紹介を行いたいと思います。

## 小山高齢者支援センター 社会福祉士 小坂周平さん

今回は、小山高齢者支援センター（小山地域包括支援センター）の小坂周平さんをご紹介いたします。

### 1. 今の職業に就いた理由

以前、就職活動中に参加したボランティアなどから「人のため・社会貢献になると感じられるような仕事をしていきたい」と考え、それまで普通の会社員として働いておりましたが、介護・福祉分野への転職をしました。その後は、老人ホーム・デイサービス・障害者福祉施設などを転々としながら、社会福祉士の資格を取って、今的小山高齢者支援センターに勤めさせていただいております。



### 2. 趣味を教えて下さい。

これまで、趣味といえるものは、学生の頃から続けていた水泳ぐらいでした。しかし去年10月、初めての沖縄旅行でのスクubaダイビングを体験し、もっと色々な海をもぐってみたいと感じました。11月からスクubaダイビングの勉強を始め、12月にライセンスを取得しましたので、まずは近場の海からチャレンジをしてみたいと思います。

### 3. 今後法人に対してどのようなことを意識して働いていきたいですか？

高齢者支援センター職員として、利用者様や地域の課題・問題に対して、多職種による連携の必要性を感じる事が増えてきたように感じます。当地域では、総合相模更生病院を中心に、同じワゲン福祉会の様々な職種の事業所があり、より密な連携・情報提供を行っていかなければと考えています。

### 4. 最後に法人職員に向けて

高齢者支援センター（地域包括支援センター）では、介護保険が必要な人たちへの支援だけではなく、元気に生活を続けられるための「介護予防事業」や、地域づくりのための活動・居場所支援も行っています。そこでは地域の方やサービス事業所だけではなく、法人の力もお借りしています。講師や開催場所の提供などをお願いもしていますが、実際の事業の場にて、参加されている地域の人たちとお話をされることも大切な支援です。お時間のある時に事業にのぞいて見て下さい。

## 編集後記

今年（2020）東京オリンピックが開催される。1964年の東京大会から実に56年の歳月が経過した。『ゆく川の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。』方丈記の一旬にあるように常に時代とともに変化していくものである。ひとり相撲ではなく、ONE・TEAMでどんな荒(あら)波にもワゲンブルーのスピリットでのぞんでいきたい。

2020.03.Vol.16

■編集：ワゲン福祉会 広報 ■お問い合わせ先：〒252-5225 神奈川県相模原市中央区小山3429

■mail : wagenkouho@wagen.or.jp ※わげん便りは社会福祉法人 ワゲン福祉会で出版されています。